



研究者名※	和田 直人 WADA Naoto	学位※	修士(芸術学)
所属※	家政学部 児童学科	職名※	教授
連絡先	wadan@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0169199		
研究分野※	複合領域、社会科学、人文学		
研究キーワード※	芸術、デザイン論、デザイン教育、幼児教育・保育、視覚障害、芸術表現、基礎造形		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害児童のための絵本開発と手作り絵本による脳力開発 (科学研究費・基盤研究C・研究代表者、2014年～2017年) ・教育学部の情報教育に関する教科教育学構築の試み (科学研究費・一般研究C・研究代表者、1995年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区立中央図書館・日本女子大学連携事業「親子読み聞かせ講座」講師(2021年) ・モダンアート協会運営委員(2019年～現在) ・全国公募モダンアート展審査委員(1999年～現在) ・山形県屋外広告物審議会委員 審議会会長(2009年～2020年) ・山形県屋外広告物講習会講師(2009年～2020年) ・山形県高等学校デザイン教育ネットワーク顧問(2005年～2016年) ・山形県高等学校デザインコンクール審査委員(2005年～2016年) ・山形県大江町サイン計画 大江町企画課連携事業(1995年) ・山形県造形連盟大学部会事務局(1993年～2001年) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・第44回モダンアート展 優秀賞 東京都美術館(1994年) ・第45回モダンアート展 奨励賞 東京都美術館(1995年) ・第48回モダンアート展 奨励賞 東京都美術館(1999年) ・モダンアート明日への展望展 俊英作家賞 埼玉県立近代美術館(1999年) 		

研究領域	複合領域 (デザイン学・芸術学)	 
研究テーマ※	絵本の視覚表現性	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 「絵本年齢」という言葉があるように、一般的には絵本は子どもを対象にしたものと考えられることが多い。また、「絵本を見る」ではなく「絵本を読む」という言葉が端的に映し出すように、絵本は児童文学の世界で子どものための物語として論じられることが多いとも言える。絵本研究の多くが、文学、保育、教育という立場からなされる理由はよく理解できるが、絵本は視覚表現によってできている点も見過ぎてはならない。絵本の美術的表現性、つまり視覚的、触覚的、身体感覚的な表現性に着目し、視覚メディアにおける表現の可能性を見極めながら、今日のデジタル技術とアナログ的手法のバランス的観点から、いかなる創造性が秘められているかを明らかにするのが本研究のねらいである。</p> <p>【応用例、研究の展望】 絵本の視覚表現性に着目し、物語ではなく視覚的側面から絵本を読み解くことで、そこにはさまざまな造形原理が見え隠れしていることに気がつく。造形の基本原理である形態、色彩、材料、質感(テクスチャー)といった造形要素とその関わりの造形原理や造形秩序をさまざまな角度から考察することによって、絵本が児童文学という枠組みだけでなく、視覚表現性からたどる新しい造形的な解釈が広がると言える。また、絵本に視覚がどのように関与しているのかを見極めることで、デザイン、文字、レイアウト、素材、表現方法、認知心理学など、絵本を構成するさまざまな造形要素について、視覚障害者の立場から絵本を考えるきっかけにもなり、ユニバーサル絵本の開発にも繋がると考えている。</p> <p>【研究方法の特色】 構成学(基礎造形学)の立場から理論的に分析する。</p>	

<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和田直人、「作品で学ぶ絵本論(絵本表現と基礎造形)」、『絵本 BOOKEND 2018』、84-114頁、絵本学会機関誌(朔北社)、2018年6月 ・和田直人、編共著『手作り絵本 SMILE』、1, 49, 89, 117頁、158-165頁、176-184頁、朝倉書店、2017年 ・和田直人、「ポスター、仮面、パフォーマンスを絵本に編み込む時」、『絵本 BOOKEND 2017』、80-87頁、絵本学会機関誌(朔北社)、2017年6月 ・中川素子、今田由香、鈴木穂波、森村泰昌、和田直人 他2名、共著、絵本学講座1『絵本の表現』、84-114頁、朝倉書店、2014年7月 ・中川素子、大島丈志、和田直人 他15名、共著、『絵本で読みとく宮沢賢治』、213-222頁、水声社、2013年10月 ・森毅、金子務、小町谷朝生、宮崎興二、和田直人 他、共著、『にほんのかたちをよむ事典』、290-291頁、工作舎、2011年12月 ・中川素子、吉田新一、石井光恵、佐藤博一、今井良郎、和田直人 他、共著、『絵本の事典』、382-407頁、朝倉書店、2011年11月 ・穂積毅重、後藤雅宣、常見美紀子、森竹巳、和田直人 他5名、共著、『アートとデザインの構成学 ―現代造形の科学―』、112-130頁、朝倉書店、2011年4月 ・俵万智、落合恵子、谷川俊太郎、和田直人 他96名、共著、『100人の心に響いた絵本100』別冊太陽、39頁、平凡社、2009年12月 ・中川素子、谷川俊太郎編、和田直人 他、共著、『おとなが子どもに会う絵本』別冊太陽、142-145頁、平凡社、2003年12月 ・中川素子、和田直人、共著、『写真を使って絵本を作ろう!』、1-56頁、あすなろ書房、2003年6月 ・今井良郎、中川素子、和田直人 他14名、共著、『イラストレーション 絵本』(文部科学省認可通信教育教科書)「絵本の表現」色・形・技法・仕掛け・材料・基材、58-77頁、武蔵野美術大学出版局、2002年4月 ・中川素子、和田直人 他、共著、「しかけ」・「色と形」・「文字」・「視覚」・「素材と技法」、『絵本と遊ぼう』別冊太陽108、9、41、55、73、93頁、平凡社、1999年10月
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚表現性に関する絵本研究 ・絵本の新たな表現に向けた素材の開発 ・手作り絵本を活用した創造教育 ・ユニバーサル絵本の開発